古文ドリル：「らむ」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト〜難関私大・国公立二次まで） **著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「らむ」の3用法

古文の助動詞「らむ」は、終止形接続（ラ変型の語には連体形接続）の **現在推量** の助動詞。文中での働きが3パターンあります。

用法	訳	判別ポイント
① 現在推量	今ごろ〜ているだろう	目に見えない所の今を思いやる。文末。「いづこ・何・いかに（どのように）・誰」で場所・中身・様子・人をたずねる文もここ
② 原因推量	（どうして）〜なのだろう	目の前の事実の理由を推し量る。「など・なぞ・いかで（どうして）・何ゆゑ」と呼応。疑問の語がなく「どうして」を補う文もある
③ 伝聞・婉曲	〜とかいう・〜のような	体言の前

③は「伝聞・婉曲」とまとめて覚える用法です。このドリルでは③の答えを「婉曲」と書きます（「〜とかいう」と訳せる伝聞もふくみます）。

識別の鉄則

1. **直後を確認**：体言なら婉曲、文末なら推量
2. **疑問の語を確認**：「など・なぞ・いかで（どうして）」のように理由をたずねる語なら原因推量。「いづこ・何・いかに（どのように）・誰」のように場所・中身・様子・人をたずねるだけなら現在推量。疑問の語がなくても、目の前の事実に「どうして」を補って通れば原因推量
3. **「今ごろ」を当ててみる**：「今ごろ〜ているだろう」と訳して通れば現在推量（「今ごろ」は訳に使うことばで、平安時代の古文にはふつう出てこない）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

> 「識別の鉄則」は見分けの基本の考え方。
> こちらは **試験本番ですばやく答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「らむ」の 直後 をまず見る

- 直後が **体言（名詞）** → **婉曲・伝聞**「〜のような／〜とかいう」
- 直後が **句点（。）／文末** → **現在推量**「今ごろ〜ているだろう」か **原因推量**「どうして〜のだろう」（コツ②で見分ける）
- 「**らめ**」の形なら **已然形**：係助詞「こそ」の結びか、「ど・ども」が続く形（〜ているだろうが）。用法は意味で決める
- これで3用法の入り口が決まる。

コツ② 疑問の語 が何をたずねているかを見る

- 「**など・なぞ・いかで（どうして）・何ゆゑ・いかなる故**」のように **理由** をたずねる語 → **原因推量**「どうして〜のだろう」。「いかに」も「どうして」の意味なら原因推量
- 「**いづこ・何・いかに（どのように）・いかにして・誰**」のように場所・中身・様子・やり方・人をたずねる語や、「雨や降る**らむ**」のように起きているかどうかをたずねる「や・か」 → **現在推量**「（今ごろ）〜ているのだろうか」
- 疑問の語がなくても、目の前の事実に「どうして」を補って通れば **原因推量**（例：「風も吹かぬに、花の散る**らむ**」＝風も吹かないのに、どうして花が散っているのだろう）。已然形＋「ば」＋「や」（思へばや＝思うからだろうか）や「〜しにや」（〜するためだろうか）のように、理由を表す部分に疑問の「や」が付く形も原因推量。

コツ③ 訳語「今ごろ」を当ててみる

- 「今ごろ〜しているだろう」と訳して文意が通れば **現在推量**。
- 目の前の事象でなく、**遠い場所・離れた人物** の今を想像する文脈で出るのが典型。
- 例：「都には桜咲く**らむ**」（都では今ごろ咲いているだろう）。「今ごろ」は訳に使うことばで、本文にはふつう出てこない。

コツ④ 「らむ」の 前が終止形 かチェックすれば誤読が消える

- 終止形＋「らむ」が原則。ラ変型の語（あり・をり・侍り、助動詞「たり・り・なり」、打消の「ざる」、形容詞の「〜かる」、形容動詞の「〜なる」）は連体形に付く。
- 「あ**らむ**」は **ラ変「あり」未然形「あら」＋推量「む」** で、「らむ」ではない（「らむ」なら「ある**らむ**」）。「取らむ」（四段の未然形）・「よからむ」（形容詞の未然形）・「咲けらむ」（完了「り」の未然形）・「いかならむ」（形容動詞の未然形）も、上の語の「ら」＋「む」。

試験本番でのチェック順序

1. 「らむ」の **前が終止形** か確認（ラ変型の語なら連体形）→ そうでなければ別の助動詞を疑う
2. **直後** を見る（体言→婉曲、文末→推量）
3. **疑問の語** を探す（「など・なぞ・いかで」など理由をたずねる語→原因推量。「いづこ・何・いかに（どのように）」など→現在推量）

4. 「今ごろ」を当てて訳が通れば現在推量。目の前の事実に「どうして」を補って通れば原因推量

→ この順番で見れば、迷わずに答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「あ**らむ**」「侍**らむ**」を「らむ」と誤判定 → ラ変「あり」「侍り」の未然形＋推量「む」。前を確認
- 「**らん**」は「らむ」と同じ語（「む」を「ん」と書いたもの）
- 体言の前でも「今ごろ〜ているだろう○○」と現在推量に訳せる例があり、そうとる説もある。このドリルでは、体言の前の「らむ」は婉曲と答える
- 疑問の語があるだけで原因推量にしない。「何をか見る**らむ**」「いづこにか住む**らむ**」は、中身や場所をたずねる現在推量

採点表

- 基礎（Q1〜Q20）：　／20
- 標準（Q21〜Q50）：　／30
- 応用（Q51〜Q80）：　／30
- 入試レベル（Q81〜Q100）：　／20
- 合計：　／100

【第1部】基礎編（Q1〜Q20）

3用法を識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都に雪降る**らむ**。

Q2. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など花散る**らむ**と嘆く。

Q3. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 唐土に伝はる**らむ**書物。

Q4. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春の野に若菜摘む**らむ**。

Q5. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかで、かく世の人をも知る**らむ**。

Q6. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 山にこもる**らむ**僧。

Q7. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 君は今、何思ふ**らむ**。

Q8. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雨降る**らむ**夜半。

Q9. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なぞ春雨かく降る**らむ**。

Q10. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 人の雪かと見る**らむ**桜。

Q11. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 旅人は今、いづこへ向かふ**らむ**。

Q12. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都の人、今いかに住む**らん**。

Q13. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 北の方は涙にむせぶ**らむ**。

Q14. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 散る花も惜しまる**らむ**春。

Q15. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかなる故にて来らる**らむ**。

Q16. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都に住む**らむ**人。

Q17. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 大空に響く**らむ**雷の音。

Q18. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都に花は咲く**らむ**。

Q19. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など人は嘆く**らむ**。

Q20. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 山陰に咲く**らむ**ひと枝の梅。

基礎編　／20

【第2部】標準編（Q21〜Q50）

文脈、係り結び、敬語が絡む応用問題。

Q21. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 故郷を発ちて、いま誰か待つ**らむ**と思ふ。

Q22. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春や来ぬ**らん**。

Q23. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なぞ世の人は心狭かる**らむ**。

Q24. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 蛍の光、明らかなる**らむ**草の上。

Q25. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 我れは知らねども、人は知る**らむ**。

Q26. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかでこの音を、かく聞き入り給ふ**らむ**。

Q27. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月かたぶく**らむ**夜半に、起きて見る。

Q28. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の人は花見つ**らむ**。

Q29. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など春雨も降る**らむ**、わが嘆く時に。

Q30. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 御前の物見させ給ふ**らむ**こと、いとあはれなり。

Q31. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月かげに、影うつる**らむ**池の面。

Q32. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 山深く、嵐吹き荒ぶ**らむ**夜半に、独り嘆く。

Q33. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 君は何ゆゑに泣き給ふ**らむ**。

Q34. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都にもいま春来たる**らむ**。

Q35. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 海辺に立つ**らむ**人。

Q36. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 飛ぶ鳥の心、君や知る**らむ**。

Q37. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 夕暮れの空を渡る**らむ**雁。

Q38. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なほ慕ふ**らむ**心、いかに。

Q39. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都を出でて、いま誰を恋ふ**らむ**。

Q40. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 寒けき夜半に、独り眠る**らむ**人。

Q41. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嵐山の紅葉、今いかに散る**らむ**。

Q42. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春の野に咲く**らむ**花を見ばや。

Q43. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 我が思ふ人は、いまいかにしたる**らむ**。

Q44. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 風吹く**らむ**山の梢。

Q45. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都人は雪を見て、何思ふ**らむ**。

Q46. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いま、都に紅葉散る**らむ**。

Q47. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なほ嘆かる**らむ**思ひ。

Q48. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 何の故にて、君は怒り給ふ**らむ**。

Q49. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月かげ、雲に隠る**らむ**夜は、心細し。

Q50. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 京の人は、今、何作る**らむ**。

標準編　／30

【第3部】応用編（Q51〜Q80）

引用構文、和歌、敬語の組み合わせを含む応用問題。

Q51. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春日野の若菜つみにや白妙の袖ふりはへて人のゆく**らむ**（古今集・紀貫之）

Q52. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嵐山の紅葉、いま錦のごとしと人皆言ふ**らむ**。

Q53. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都の人にある**らむ**と思ふ。

Q54. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雲深き夜なるに、月さやかに見ゆ。いかで見ゆ**らむ**。

Q55. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都人いま秋の風を聞く**らむ**。

Q56. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 心知る**らむ**人にこそ、語らはめ。

Q57. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散る**らむ**（古今集・紀友則）

Q58. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> はや秋来たる**らむ**野辺の色。

Q59. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかで秋風は人の心を吹く**らむ**。

Q60. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嘆かる**らむ**心、いかにせむ。

Q61. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 海に出でて漁す**らむ**人ぞ多き。

Q62. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 何ゆゑに嘆く**らむ**と人問ふ。

Q63. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の春、今は盛りなる**らむ**。

Q64. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 心ぼそく住む**らむ**山里。

Q65. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 行く春は、今いづかたに行く**らむ**。

Q66. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 夢の中にて会ふ**らむ**人。

Q67. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 仏に祈り給ふ**らむ**心ぞ尊き。

Q68. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など、かく急ぎ給ふ**らむ**と思ふ。

Q69. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の人は風雅を解す**らむ**。

Q70. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> かの人、我が心をよく知れり。いかでか知る**らむ**。

Q71. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嵐に倒る**らむ**木。

Q72. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 風吹けば波立つ**らむ**海辺の人ぞ恋しき。

Q73. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 幼き子、「母は、いま何をかす**らむ**」と問ふ。

Q74. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春の山に響く**らむ**鳥の声。

Q75. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の方角、いま雲かかる**らむ**。

Q76. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかで秋風は身にしむ**らむ**。

Q77. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の光、はるかに照らす**らむ**野。

Q78. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 故郷を想ふ**らむ**夜半に、月清く照る。

Q79. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 鶯さへづる**らむ**春の朝。

Q80. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雪深き山にこもる**らむ**人。

応用編　／30

【第4部】入試レベル（Q81〜Q100）

Q81. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 憶良らは今は罷らむ子泣く**らむ**それその母も我を待つらむそ（万葉集・山上憶良）

Q82. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> かかる所にとどまる**らむ**人、いかに心細からむ。

Q83. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雪いたく降りぬ。山里はいかならむ。道も絶えぬ**らむ**と思ひやる。

Q84. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 山里に住む**らむ**人は、今宵の月をいかに見る**らむ**。

Q85. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 行く春に、我が涙止まざる**らむ**。

Q86. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都にある**らむ**宮をば、世の人は誰も知らず。

Q87. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いみじき宿世の人にある**らむ**を、いかでかかる目に遭ふ。

Q88. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> ねぶたしと言へど、なほ筆を取り、何書く**らむ**。

Q89. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 鳥のさへづり、心地よく聞こゆ**らむ**朝。

Q90. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 物のあはれを知らぬ人にあらざる**らむ**。

Q91. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月やどる**らむ**（古今集・清原深養父）

Q92. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春のあけぼの、空おぼろに霞む**らむ**山際。

Q93. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 世の人の語る**らむ**ことを、みなまことと思ふべからず。

Q94. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかにして都人もこの花を見る**らむ**と思ひやる。

Q95. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都に住みける人、いまも生き給ふ**らむ**。

Q96. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雨に濡る**らむ**枝の花よ、な散りそ。

Q97. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 思ひつつ寝ればや人の見えつ**らむ**夢と知りせばさめざらましを（古今集・小野小町）

Q98. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 我が背子はいづく行くらむ沖つ藻の名張の山を今日か越ゆ**らむ**（万葉集）

Q99. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 命も惜しまず唐土に向かふ**らむ**人。

Q100. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 物のあはれを知らむ人にこそ、なほ嘆かる**らめ**。

入試レベル　／20

合計　／100

あとがき

「らむ」の識別の核心： - **直後を見る**：体言→婉曲、文末→推量 - **疑問の語を見る**：「など・なぞ・いかで（どうして）」なら原因推量。「いづこ・何・いかに（どのように）」など場所・中身・様子をたずねるだけなら現在推量。疑問の語がなくても「どうして」を補って通れば原因推量 - **「今ごろ」を当ててみる**：「今ごろ〜ているだろう」と訳して通れば現在推量

「らむ」は **今のことを推し量る** 助動詞（目に見えない所の今を思いやる／目の前の事実の理由を推し量る）。体言の前では「〜ような・〜とかいう」（伝聞・婉曲）になる。 「けむ」（過去推量）「べし」（推量全般）と混同しないこと。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太